

【樹木・草花の部屋】

ヒバ（ヒノキ科/ヒノキ亜科/アスナロ属 *Thujopsis dolabrata* var. *hondae*）

和名；ヒバ(檜葉) **別名**；ヒノキアスナロ(檜翌檜) **英名**；

マツ目 常緑針葉樹

原産地；日本 **花言葉**；「私のために生きて」 **花の色**；薄緑（グリーンの実のよう）



← 写真－1 ヒバの樹形

撮影日：2013年2月5日

撮影場所：青森県薬研温泉にて

撮影者：Mさん

青森県下北半島の薬研温泉で見かけました。宿泊したホテルの食卓の飾りとして出されました。鮮やかなグリーンに驚き、一時は樹脂製？と・・・仲居さん曰く、森の奥まったところで、毎日、必要量を採取しているとか・・・。とにかく、「ヒバ」そのものが初めて対面する樹木でもあり、珍しさに感激？

翌日、薬研温泉から奥薬研温泉までの2km弱を散策。路面は完全凍結か雪溜まり。時折、樹木から落雪。とはいってもパウダースノーなので霧がかかったような幻想的な世界に・・・。周囲はヒバとなぜかスギの混成林・・・。部分的にはヒバのみ群生しているところも・・・。県養成林の看板もありました。

写真－2 ヒバの枝 ⇒

撮影日：2013年2月5日

撮影場所：青森県薬研温泉にて

撮影者：Mさん

ヒバは、アスナロ属の変種としてヒノキアスナロと[アスナロ](#)に分類され、日本にだけ分布。大きく区分すると北方型と南方型に分れます。

「青森ヒバ」は北方型で学名(和名)を「ヒノキアスナロ」といい、本州中部以西にある南方型を「アスナロ」といわれるとのこと。



【樹木・草花の部屋】



写真 - 3 ヒバの葉（表）



写真 - 4 ヒバの葉（裏）



撮影日：2013年2月5日

撮影場所：青森県薬研温泉にて

撮影者：Mさん

撮影日：2013年2月5日

撮影場所：青森県薬研温泉にて

撮影者：Mさん

アスナロ属を植物学者が命名したのは、天保13年（1842年）に、シーボルトらによって木曽地方から採取されたものがアスナロと名づけられたのが初めてだそうで、その後、明治34年（1901年）に、本多静六氏が青森地方から採取した標本を、牧野富太郎氏が、球果の形や色が違うことから、ヒノキアスナロと命名したそうです。 ヒノキアスナロやアスナロをいつ頃から「ヒバ」と呼んだかは、はっきりした記述はなく、東北森林管理局青森分局に保管されている文書では、明治41年の施業案説明書の中にヒバという名称が使用されているそうです。

<ちょっと一言>

日本三大美林

青森県内で産出される木材は、青森ヒバと呼ばれ、木曽ヒノキ、秋田スギと共に、日本三大美林とされている。

「青森ヒバ」は「アスナロ」に比べ蓄積も豊富で材質的にも優れており、古くから社寺仏閣、城の築材として ヒノキとはまた違ったヒバ特有の 香を放ち、害虫に強く耐久性も抜群で、木材の中でも大変腐りにくい材料。白蟻に大変強いことから土台に多く使われ、そのほかヒノキと同じく柱、床、外壁や浴室など耐久性の要求される場所に使用されているそうです。

呼び方

奈良・和歌山地方ではアスカベ、木曽地方アスヒなど地方によってかなりな呼び方があるようです。東北森林管理局青森分局の「特定地域（ヒバ林）森林施業基本調査」によると、ヒバの呼び名は46種類に及ぶことが記載されています。